



進路だより

山武市立蓮沼中学校
令和3年11月15日(月)
第6号

第1回校内進路会議を行いました。

11月4日(木)に第1回校内進路会議を行いました。会議には3学年の職員に加え、校長先生、教頭先生、教務主任、1学年、2学年の学年主任の先生方に参加していただき3年生の進路希望状況について、志望動機や学力が適正であるかについて確認を行いました。

これまで復習テストの成績が安定し、学力的には志望が適正な人たちもおりましたが、第1志望の高校に合格するには難しい状況にある生徒のみなさんもいました。11月8日(月)に配付した第4回進路希望調査【受験(検)校確定票】には、学級担任の助言を参考にいただき、ご家族でしっかりと相談した後、提出していただきたいと思っております。

第4回進路希望調査【受験(検)校確定票】と私立高校入試相談

第4回進路希望調査【受験(検)校確定票】の記入および提出についてですが、今回は私立高校について受験校の確定になります。今後、この書類に記載された高校について蓮沼中では出願準備の書類を作成し、12月15日(水)から各私立高校で行われる入試相談に受験予定者として高校に報告し、可否の可能性について高校の側と検討する作業に入ります。

第4回進路希望調査【受験(検)校確定票】に記入していただいた高校については、私立高校の入試相談に資料を提供することの承認と、その高校を必ず受験するという意思を表明したことになります。「出願手続きは日程的にまだ先の話」という段階ではもはやありませんのでご注意をお願いいたします。

入試相談はすべての私立高校が実施するといわけではありませんが、蓮沼中近隣の私立高校では実施されています。入試相談を通さずに受験することは、私立高校側が想定していなかった受験者として、入試相談を受けた受験生に比べ合格のハードルがかなり高くなってしまいます。また逆に入試相談を受けた場合は必ず受験をし、合格した場合は入学の手続き(主に入学金の支払いまたは延納手続き)を行っていただくことになります。これらの点をご理解の上、提出をお願いいたします。

公立高校の記入は、希望順位に関わらず一校のみでお願いします。ただし公立高校については、出願書類の準備はまだ先になるため変更の可能性があっても結構です。

私立高校の受験形態は!? 推薦入試で!? それとも一般入試で!?

私立高校は試験日程が前期選抜と後期選抜と2回の受験機会を設けていますが、最近は試験を前期選抜の時期に複数回行い、後期選抜は行わない高校もあります。後期選抜は定員を補充するためであったり、新型コロナウイルス感染症対策等、受験生を救済するための色合いが強いです。また、後期試験の日程を利用して特待生を選抜するための試験を行う高校もあります。

次に私立高校をどのような受験形態で受けるかですが、私立高校は推薦入試を行い受験生の負担を軽減しつつ、入学者の人数を確保していきます。また推薦入試に比べ一般入試では、募集人数を少なく抑えているので、私立高校を受験する際は、単願(専願)にせよ併願にせよ推薦で受験の方が圧倒的に有利になります。もちろん高校へ蓮沼中の看板を背負っていくわけですから、学力ばかりでなく、学校での生活の様子も大切であり、誰でも推薦で受験できるというものではありません。しかし、生徒のみなさんには、ぜひがんばっていただき推薦入試で私立高校を受験していただきたいと思っております。

公立高校単願で大丈夫!?

いろいろな事情で、私立高校の受験はしないという選択もあるのかもしれませんが、「もしも」の事態に備えて私立高校の受験をお勧めします。私立高校を受験することになると、「本命の公立高校の受験勉強が疎かになる」という考えもあるかもしれませんが、私立高校の受験を経験した人に比べ、いきなり公立高校を受検するのでは心の準備に差ができてしまうように思います。また、進路を公立高校に限定することで、プレッシャーから受験勉強に手がつかなくなってしまうこともあります。私立高校は授業料が高くお金がかかるイメージがありますが、国の制度や千葉県の制度、私立高校の制度など授業料については、支援する制度があります。もちろん授業料意外に別途「施設設備費」などの名目で授業料とは別にお金が必要になりますが、万が一のために公立高校に加え、私立高校の受験を検討して頂きたいと思います。

1・2年生へ いずれは君たちの番です。

1・2年生のみなさん、3年生は今、自分の進路について決断をする時期を迎えています。来年の11月は2年生、再来年の11月には1年生に順番がまわってきます。自分の進路について考えることを先延ばしにせず、将来の自分をイメージしながら、中学生の段階でどのようなことを身につけておかねばならないか考えてみましょう。

漠然と「〇〇になりたい」という将来の夢の状態から、より現実的に自分が目指す職業について調べ、その職業に就くためにはどのような道筋（キャリア）があり、どのように進んでいく必要があるのかを確認しましょう。

もうかなり昔のドラマになりますが（「進路だより」を書いている私が高校生になった時のことです）、「中卒東大一直線 もう高校はいらない」という坂上忍さんが主人公を演じたドラマがありました。ドラマのタイトルのとおり、この主人公は、日本の教育システムに疑問を感じ、自分が進みたいと思う道筋（キャリア）には高校は不要と考え、高校卒業の資格を得られる「大学入学資格検定」に合格し東大への進学を目指します。そして、主人公が自分の思いと周囲とのギャップに悩みながら、自分が選んだ道を進んでいく姿が描かれました。

私は高校へ進学することを否定はしませんし、「このドラマの主人公のように生きなさい」と言うつもりもありません。しかし、自分の目標にたどりつくための道筋（キャリア）は一つとは限りませんし、それとは逆に、この道筋を通らなければいけないという場合もあるかもしれません。

私は、みなさんには自分の将来について目的意識をもったの中学校生活を送って欲しいと思います。「まだ先のことだから...」と先送りにせず、完璧な結論にいたらなくてもいいので、少しずつ将来について考え、わからないことは自分で調べたり、お家の人や先生に相談して欲しいと思います。そして、みなさんが3年生の11月を迎えた時に慌てたり、安易な結論を出すことがないようにしてください。進路の選択は1年生も2年生ももうすでに始まっています。中学校卒業後の進路に向かって一歩ずつ、しっかり進んでいきましょう。

